

平成30年3月30日 (No.28)

上川口福祉推進協だより

上川口地区福祉推進協議会

今年の福知山の冬は、最初は大雪が危ぶまれていました。でも、なぜかその恐れのわりには予想よりも“控えめ”な積雪で、いつの間にか梅が咲き、桜まで咲き開く陽気となってきました。

上川口地区推進協の皆さんには、温かい春の準備に向けて多々お忙しいことと存じ上げます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

推進協の今年度後半の活動は、主なものでは講演会あり、見学・視察ありでした。講演では日頃から、関心の深かった防災関係への気配りや避難の在り方などについて理解を深めることができました。さらに、長岡京市方面への視察・研修では、福祉の課題だけではなく、梅の咲く頃に長岡天満宮近くの施設見学や千利休の茶室拝観ができるなど、充実した見学・研修となりました。

□推進協「講演会」 29年12月6日 於；上川口会館。

○講師： O・T 様 演題：「防災マイマップ」

○質疑、懇談から；

a 自分で避難できる人はよいが、自分の力だけでは避難できない人もある。どのようにすればよいか。

b ある地域の女性の場合：災害地域に指定されていない所。移動するよりも、離れの二階の方が安全と思われ、そのようにしてしまうことも考えられるが、実際には避難完了確認をする人の立場も含めての関係者の協議が必要。

c 行動は皆とする： ・確認は今は取れるが、2,3年後はどうするか？

d 民生委員に入ってもらった例もある。区長と民生委員の連携。

e 一人なら何とかなくても、3～4名になったら？ 過去の例？

f 個別対応になって、区長が迎えに行ったとして、危険区域に入り、二次災害のようなことがあれば責任は誰が？ 行政に伝える必要も。

g マイマップは各地でつくられはじめています。ある地域の例では、各家庭の事情別にマーカーペンで表記されています。

家別に マーカーペンで

△家を緑色にしてある。→例：車イスを押して！

△家を黄色にしてある。→(?) △家を赤色にしてある。→(??)

「助けて！！ と言えない人がいます。」 「車イスで外出や避難をします。」 「聞こえにくい人がいます」 「寝たきりの人がいます。」……などなど、その他いろいろと地域独自の事情に対応した種類別の対処ができることが、安心感につながります。

これらはいろいろな要望をくみ上げる目安になるし、各種の対応が可能になります。

□2月27日には、長岡京市方面の視察・研修がありました。—感想から—

長岡京市社会福祉協議会

きりしま苑

- 高齢化が進んでいく現状で、孤立化への対処をいかにすすめるかそんな活動を考えていきたい。
- まず、行事に誠実に取り組む。
- ネットワークを生かした諸活動を分かりやすく、提示できる事が有効。図や絵、パンフを活用する。
- 自治会の組織率が低い中でネットワークの活動が多彩な印象をうけた。
- 「きりしま苑」のロビーは誰でも好きなときに参加ができる雰囲気があった。
- 施設や催し物に対して、出入りが肩苦しくない“ゆるい”感じがして好感が持てた。

長岡京方面

きりしま苑

- 妙喜庵の中に入れてもらって、意外とよかった。
- 武将が、最後になるかもしれない出会いをすませ、心おきなく命をかけて戦場に向かった様子が忍ばれた。
- 壁などにも荷物が触れて傷まないよう配慮されていた。

妙喜庵はよかった

○長岡天神

- 散策できてよかった。梅が咲いていた。
- 広い所でゆっくりできた。

梅が咲いていた天満宮

○勝竜寺城公園

- いつの間にか通過していたので、バスを止めて説明があってもよかった。